

平成 28 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	京都大学大学院 教育学研究科	職名	博士後期課程	助成金額	200,000 円
氏名	福若 真人 印	メール アドレス			
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
「いのち」のつながりを探究する共同体形成に関する予備研究 —理論と実践を架橋する語りの聴き取りを手がかりにして—					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>本研究は、教育活動において「いのち」のつながりを持続可能なものとして探究することができるような学校・家庭・地域を包括する共同体のあり方について、理論研究者および実践者の「語り」を基に検討することを目的とする。</p> <p>具体的には、日本ホリスティック教育協会の諸活動を対象とした下記の二つの分析を通して、「いのち」のつながりを持続可能に探究するあり方について探ることとした。</p> <p>(1) 協会が発行してきた刊行物の分析 協会が発行してきた書籍（ホリスティック教育ライブラリー [全 10 巻+別冊]、ホリスティック教育叢書）、および研究紀要（『ホリスティック教育研究』第 1 号～第 20 号）について整理し、その特徴を検討した。協会創設後から 20 年の活動年表（簡易版）を作成するとともに、書籍の執筆者一覧、研究紀要の総目次と各資料についての解題をまとめたものを、『ホリスティック教育研究』第 20 号に寄稿した。また、その特徴をホリスティック教育の理論枠組みを踏まえながら再検討し、京都大学未来創成学国際研究ユニット 国際シンポジウム（Transdisciplinary Symposium on Advanced Future Studies : 京都大学、2 月 10 日）にて、口頭発表を行った。</p> <p>(2) 協会に関わる理論研究者および実践者の「語り」をめぐる分析 協会創設 20 周年記念フォーラム（6 月 17 日）、日本ホリスティック教育/ケア学会創設大会（6 月 18 日）開催に向けた準備活動に約 1 年間参画してきた。その過程で、協会が創設される経緯や、協会に関わる諸実践の動向、「理論と実践の往還・架橋」のあり方についての「語り」を収集した。特に 3 点目については、理論研究者と実践者による「対話」の企画を設け、その目的と意義を新書『対話がつむぐホリスティックな教育—変容をもたらす多様な実践—』（創成社）の序章にまとめた。また、その概要を日本ホリスティック教育/ケア学会年次大会（大阪府立大学、6 月 18 日）ラウンドテーブルにて報告した。</p> <p>上記の課題遂行のために、資料購入費・印刷費：約 75,000 円、録音用の IC レコーダー購入費：約 15,000 円、準備活動や新書作成のための研究打合せ、発表等の交通費：約 110,000 円を、当助成金から支出した。</p> <p>学校教育のみならず、家庭や地域のまちづくりを含めた人間形成の営みにおいて、包括的な「いのち」のつながりを探究する共同体として、断片化された人間観や世界観・生を回復する知を模索してきた協会は、今後ウェブ上にその成果を構築するアーカイブス機能を果たしつつ、研究者と実践者が協働するネットワークの拡充を支えるコミュニティ機能を展開していく。アーカイブスの充実と、協働による知の深化をめぐる協会の動向について参与観察を継続しつつ、そのあり方と更なるコミュニティの活性化についての検討を、今後の課題としたい。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		
① 福若 真人	「日本ホリスティック教育協会 20 年の歩み」	『ホリスティック教育研究』 (第 20 号)	2017 年 3 月		
② Masato Fukuwaka	The Feature of Holistic Education in Japan: Based on Activities of Japan Holistic Education Society in 20years	International & Transdisciplinary Symposium on Advanced Future Studies	2017 年 2 月		